瑞浪市道の駅基本構想【概要版】

令和元年８月

この基本構想は、「まちづくりの核」として地域課題を解消し、地域振興や地域活性化の役割を担い、さらには瑞浪市の新たな玄関口となる道の駅整備を目的とするとともに、釜戸地区だけでなく、他の地区にとっても、地域課題解消のモデルケースとなることを期待して策定しました。

なお、基本構想の策定にあたっては、学識経験者や、まちづくりに関わりの深い市民の方などで構成される「瑞浪市道の駅検討委員会」を設置し、協議を行いました。

＜道の駅検討の背景＞

○人口減少・少子高齢化が顕著に進む釜戸のまちを、お年寄りから子どもまで、幅広い世代にとって、暮らしやすく、住み続けることができるまちとしたい。

○さらに、まちの魅力を高めることで、地元の人だけでなく、新たに住みたいと思う人・新たに活動したいと思う人を増やしていきたい。

○しかしながら、瑞浪市内でも人口減少が進む釜戸地区では、まちのにぎわいの喪失、商店の衰退などが進行し、まちとしての魅力が低下するという、悪循環に陥っている。

○そのような現状のなか、瑞浪恵那道路事業が決定し、上平地区に平面交差点ができることとなった。まちの人口が減少するなか、新たな人の流れが生まれることをチャンスと捉え、交流人口を上手く取り込み、まちに関わる人の全体の人口を増やすことで、「暮らしやすさ」を実現するための機能（小売店や飲食店など）を導入し、まちのにぎわいも創出できる可能性があると考える。

○そこで、まちとの交流人口を増やす手段として、道路利用者の休憩施設である「道の駅」の整備を検討することとした。

○また、開駅までの時間を有効に活用し、暮らしやすさに必要な機能、にぎわいの創出、地域資源の活用、既存施設との連携、またそれらに関わる人材の発掘・育成など、必要な機能・活動について検証していき、まちとともに育っていく施設となるように検討する。

瑞浪市

1．瑞浪市・釜戸地区の現状と課題

〇瑞浪市及び釜戸地区では人口減少・高齢化が進行しており、平成 30 年（2018 年）の市の人口及び高齢化率は 37,711 人・30.5%、釜戸地区は 2,817 人・40.3%です。

〇釜戸地区は市域でも高齢化が進行しており、また、今後さらに人口減少が進めば地域活力が低下することが懸念されています。

〇市民アンケート及び釜戸・大湫住民アンケートにおいて、釜戸地区の住みやすさについてたずねたところ、住みよいと感じている割合が市内全域の結果と比べて低くなっています。

〇計画地周辺では、竜吟湖や水晶山などの豊かな自然や、大湫宿、釜戸温泉・白狐温泉等の観光資源を有していますが、周辺住民にとっては、人口減少・高齢化が著しく、子育て世代の流出・空き家の増加や、駅前でありながら日常生活に必要な買い物をする場がないことなど、将来的なまちづくりを考えるうえで課題を有しています。

● 地域の資源など
● 懸念すべき事項

【道の駅の計画地周辺の現況】

2．国道 19 号瑞浪恵那道路の概要

〇国道 19 号は、名古屋市を起点とし、岐阜県東部（東濃地方）を通過して長野市に至る、延長約 270 km の幹線道路です。

〇道の駅が隣接する計画の国道 19 号瑞浪恵那道路は、瑞浪市と恵那市を結ぶ延長約 12.5 kmの道路で、現 19 号の渋滞・事故等の解消や、リニア中央新幹線の開業時（平成 39 年（2027 年）予定）の地域振興に寄与するもので、平成 30 年（2018 年）4 月に全区間事業化されています。

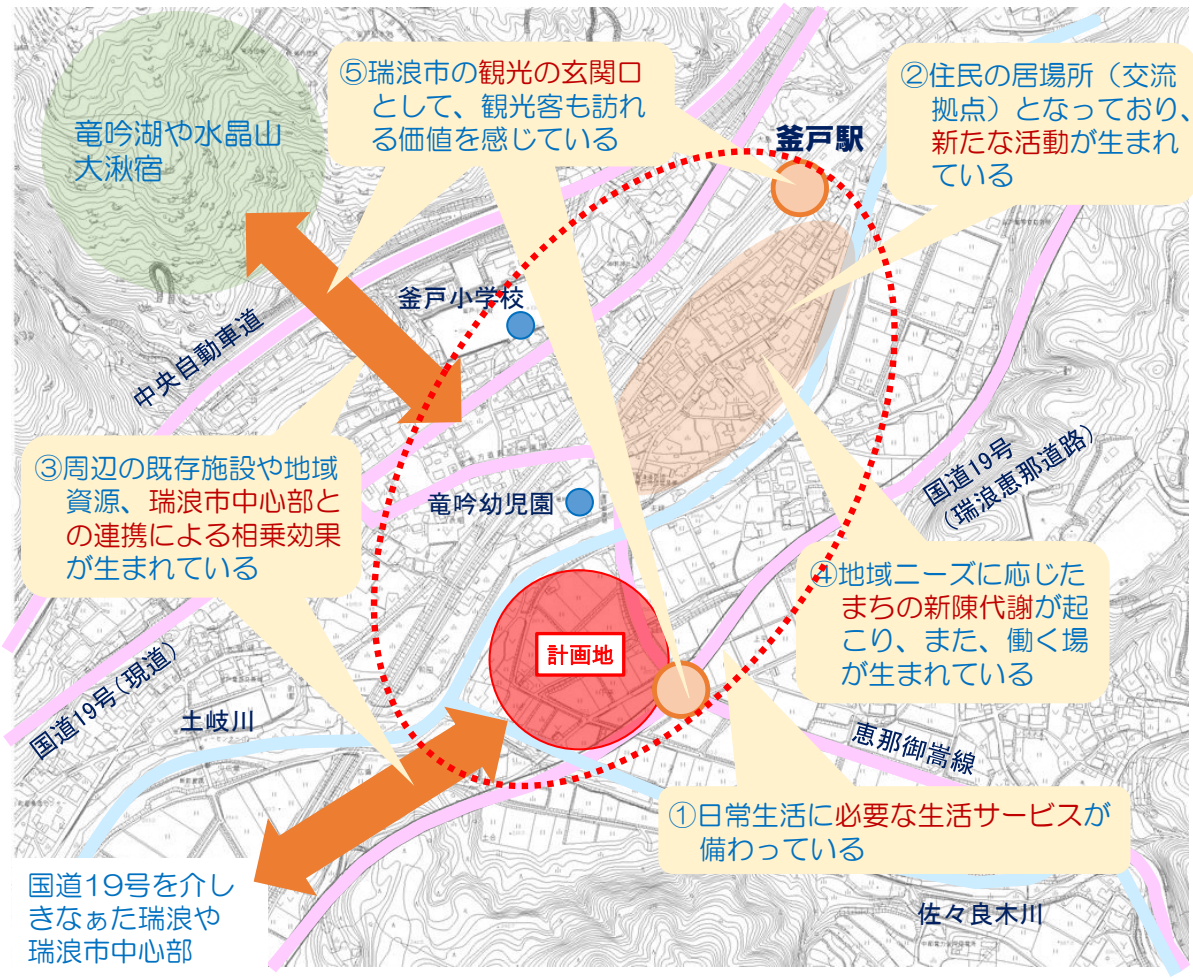
3．計画地周辺のビジョン（10 年後にめざすまちの姿）

○「まちづくりの核」となる道の駅とするためには、将来めざすまちの姿を見据えることが必要であると考え、まちの課題を把握した上で、めざすまちの姿を検討しました。整備する道の駅が、そのまちづくりの中で、どのような役割を担うことができるか、という観点から基本構想の検討を行いました。

○瑞浪市及び釜戸地区を取り巻く環境が大きく変化するなかで、10 年後であっても計画地周辺が、釜戸地区の暮らしの魅力を継承しつつ、社会ニーズに応じた新たなまちへと展開できるよう、「釜戸の暮らしの拠点」として、具体的には下記の 5 つのまちのビジョンの実現をめざします。

住民のたまり場となる　“釜戸の暮らしの拠点”

まちのビジョン①　日常生活に必要な生活サービスが備わっている
まちのビジョン②　住民の居場所（交流拠点）となっており、新たな活動が生まれている
まちのビジョン③　周辺の既存施設や地域資源、瑞浪市中心部との連携による相乗効果が生まれている
まちのビジョン④　地域ニーズに応じたまちの新陳代謝が起こり、また、働く場が生まれている
まちのビジョン⑤　瑞浪市の観光の玄関口として、観光客も訪れる価値を感じている



【まちのビジョン（10 年後にめざすまちの姿）】

○この 5 つのまちのビジョンを実現するためには、行政だけでなく地域の人々とともに、時間をかけて取り組む必要があります。

4．実現に向けた取組みと役割分担例

○「10 年後にめざすまちの姿」を実現するために、５つのまちのビジョンごとに、必要な取組みを整理しました。さらに、これらの取組みを、役割が異なる４つの主体（「道の駅」「既存施設との連携」「地元の取組み」「行政施策」）で、分担するように整理しました。

○それぞれの取組み主体は、限られた人材・財源のなかで、数多くの取組みがあることから、できることから選択して取組んでいく必要があります。

【役割分担例】

まちのビジョンと各ビジョンを実現するために必要な取組み	各取組みの実施主体			
	道の駅	既存施設との連携	地元の取組み	行政施策
まちのビジョン①日常生活に必要な生活サービスが備わっている				
日常生活に必要なスーパーやコンビニ等の商業施設の誘致	●		●	
今ある商業施設の維持、空き店舗を活用した生活サービスの提供		●	●	
診療所や子育て支援施設、高齢者福祉施設等、福祉サービスの提供				●
更新が必要な公共施設等の集約化				●
子どもが安心して遊べる公園の整備、災害時の避難場所の整備	●			●
他の施設や市内との交通手段の確保				●
まちのビジョン②住民の居場所（交流拠点）となっており、新たな活動が生まれている				
たまりとなるカフェや市民活動の場となる空間の整備	●		●	
今ある商業施設の維持、空き店舗を活用した生活サービスの提供（再掲）		●	●	
イベントや講習会等の開催	●		●	
歩いて楽しいまちの形成、景観形成		●	●	
山や川等、自然環境を活かした憩い空間の整備	●		●	
公共交通の利用促進				●
まちのビジョン③周辺の既存施設や地域資源、瑞浪市中心部との連携による相乗効果が生まれている				
更新時における拠点周辺の既存施設の誘導				●
国道 19 号を介した瑞浪市中心部やきなぁた瑞浪との連携	●	●		
近隣の観光資源を訪れる人たちの観光拠点の整備	●			
空き店舗や空き家の活用		●	●	
温泉旅館との連携による新たな取組みの展開	●	●		
周辺農業と連携した体験プログラムの展開	●		●	
地元の祭りとの連携	●		●	
川辺を活かした新たなサービスの提供	●		●	
まちのビジョン④地域ニーズに応じたまちの新陳代謝が起こり、また、働く場が生まれている				
今ある商業施設の継承（世代交代）や機能更新		●	●	
時代に適した生活サービスの提供	●		●	
観光需要に応じた新たなサービスの展開	●		●	
地域の担い手育成			●	
まちのビジョン⑤瑞浪市の観光の玄関口として、観光客も訪れる価値を感じている				
近隣の観光資源を訪れる人たちの観光拠点の整備（再掲）	●			
歩いて楽しいまちの形成、景観形成（再掲）		●	●	
周辺農業と連携した体験プログラムの展開（再掲）	●		●	
観光需要に応じた新たなサービスの展開（再掲）	●		●	
道路利用者も利用できるコンビニや飲食店等のサービスの提供	●	●		
観光情報発信機能の整備	●			
特産品の開発	●		●	
温泉旅館との連携による新たな取組みの展開（再掲）	●	●		
国道 19 号を介した瑞浪市中心部やきなぁた瑞浪との連携（再掲）	●	●		
温浴施設の整備※		●		
農産物直売所の整備※		●		

※事業者ヒアリング等を基に導入可能性について検討した結果、新たに道の駅への整備はしない方針とします。

注）表中の（再掲）の表示があるものについては、まちのビジョンの番号が小さいもので既出のものを指します。

5．道の駅の基本方針とコンセプト

〇めざすまちの実現に向け、整理した役割を担う道の駅となるように、基本方針と道の駅のコンセプトを決めました。

■道の駅の基本構想策定に向けた、３つの基本方針

〇未来のまちづくりに向けた　**「釜戸地区の「暮らしの拠点」の一翼を担う道の駅」**

⇒地域活性化の拠点として、釜戸地区及び瑞浪市のまちづくりの観点から、どのような道の駅が良いのかを考えるだけでなく、めざすまちの姿の実現に寄与する道の駅とします。

〇集客力を高める　**「立ち寄り目的となる道の駅」**

⇒瑞浪市の道路利用者の玄関口として、新たに整備する国道 19 号瑞浪恵那道路の利用者がふと立ち寄るだけでなく、日常的に地元の人たちが利用し、また、遠方からも目的地として訪れていただけるような道の駅とします。

〇柔軟に仕掛けが更新できる　**「地域主体の道の駅」**

⇒開駅までの時間を、段階的な施設整備期間と位置づけ、地域ニーズに応じた柔軟な対応ができるよう、検討段階から開設・運営に至るプロセスを地域と共有し、積極的に関わることのできる道の駅とします。

■基本方針を踏まえた、道の駅のコンセプト

“まちと　ともに　育つ　道の駅”

検討委員会の様子

住民ワークショップの様子

6．道の駅への導入機能

〇道の駅に導入すべき機能は以下のように整理しました。

暮 釜戸地区の住民の暮らしを支える

■日常の買い物や交通利便性の確保
　よろずや（日用品やサービス等が手に入る小売店）、交通拠点

■災害時の安全性の確保
　避難施設、備蓄倉庫

■多様な楽しみ方の創出（暮らしの質を高める）
　子どもが安心して遊べる公園、多様な飲食店

道の駅お茶の京都 みなみやましろ村(京都府)

なぎさのテラス(滋賀県)

防災倉庫(瑞浪市)

賑 釜戸地区から賑わいを創りだす

■既存資源の活用
　自然に囲まれた広場、上平用水や佐々良木川を活かした水辺空間の創出、きなぁた瑞浪や他の市内資源との連携

■釜戸地区の個性の発揮
　釜戸の特産品の開発、特産品を活用した土産販売や飲食店、農業等と連動した体験プログラム、地元の祭りとの連携、イベント等による新たな個性の創出

■釜戸地区住民と来訪者の交流促進
　カフェ等の飲食店、交流拠点づくり（広場、イベントスペース等）、音楽やアート等多様なイベントの実施

清流平和公園(岐阜県)

7．導入機能の規模

〇道路利用者が道の駅に立寄ることで、新たな需要が生まれるため、これまで地域内で商圏を成立させることが難しかった機能を道の駅に導入できる可能性があります。

〇道路利用者と地域住民の双方の利用を想定した場合の施設規模は以下のとおりです。

【道の駅の規模】

機　能	算定概拠	面　積
よろずや	前面交通量をもとに算出	約 200～500 ㎡
飲食施設		約 200～300 ㎡
トイレ		約 300 ㎡
情報施設、休憩所	周辺類似事例より	約 100～200 ㎡
	道の駅　合計	約 1,000 ㎡

8．施設配置とゾーニングイメージ

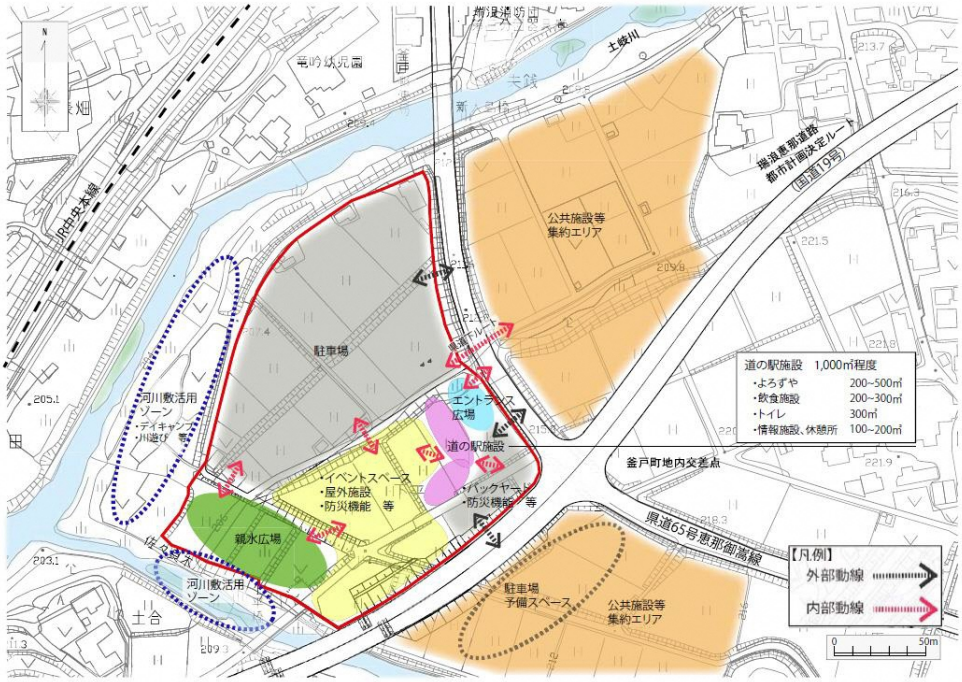
○敷地造成は計画地周辺の景観を生かした、河川敷と敷地との一体的な景観形成をめざし、出来る限り地形を生かす計画とするとともに、施設配置は高台となっている敷地南側に施設を整備する、又は建物の構造を工夫することにより、水害時の安全性に配慮した計画とします。

○良好な景観と安全性の両立をめざし、土地の魅力を引き出し、水に親しみやすい広場（親水広場）とするため、河川敷と敷地とが分断されることなく、なだらかにつながる広場の整備をめざします。

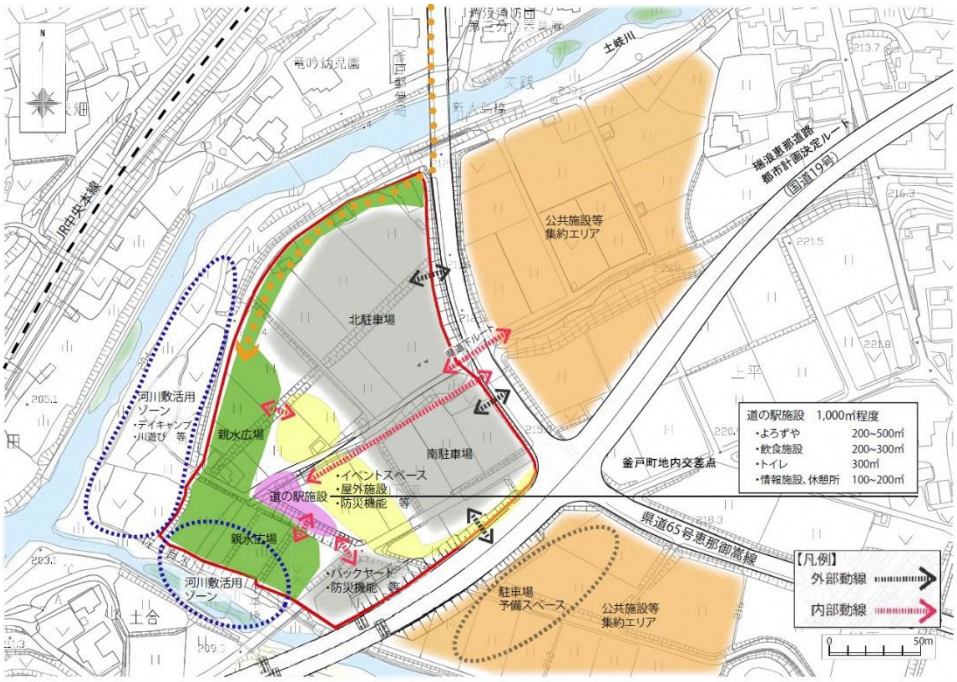
○道の駅の整備をきっかけに、周辺エリアの活性化や利便性の向上など市の課題解決に向け、周辺部への公共施設等の集約についても併せて検討します。

【イメージ例（基本構想より抜粋）】

■ 配置計画イメージ例１：施設エリアの安全性を確保し、駐車場を一面的に整備



■ 配置計画イメージ例３：施設エリアと駐車場一部の安全性を確保し、釜戸市街地から親水広場への歩行者アクセスを整備

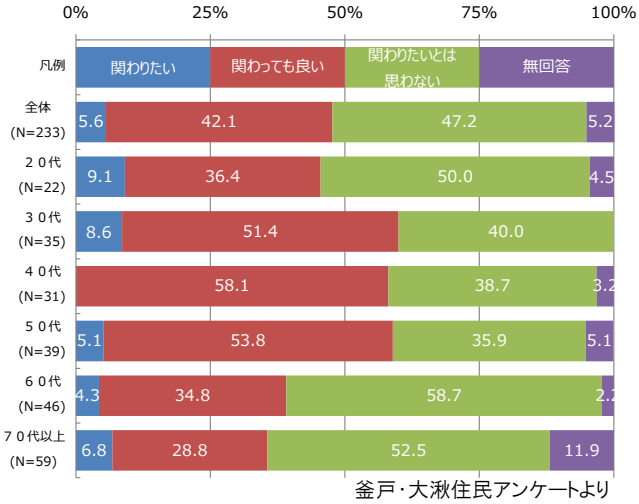


９．今後の進め方

○この事業は、リニア中央新幹線の開業及び国道 19 号瑞浪恵那道路供用を前提とした、道の駅の整備事業であり、平成 39 年（2027 年）の開駅を想定しているため、開駅までに期間があります。

○住民意向調査にて、道の駅の運営等に関わりたいと考える方が多くいたこともあり、「瑞浪市道の駅検討委員会」では「施設整備までの時間を活用し、将来的に道の駅で活躍してくれそうな人たちを集め、地域での運営組織をつくることが、地域活性化に寄与するのではないか」という意見がありました。そこで、道の駅の運営にあたって、地域が主体的に参画できる仕組みを検討しました。

○地域が主体的に参画することで、地元住民の意向を十分に踏まえることができるため、道の駅が「暮らしの拠点」の一翼を担う施設となると考えます。



釜戸・大湫住民アンケートより

【年代別地域活性化拠点運営への関与】

○今後は、道の駅整備に向けた具体的な検討を進めるなかで、段階的な検討と試行を繰り返しながら、導入施設の機能や施設規模、管理運営手法等の詳細を決定します。また、導入機能に応じた道の駅の整備に活用可能な補助事業を幅広く検討します。

１０．基本構想策定までの取組み

○以下のような取組みを行い、市民意向や関係者の意見を確認しながら「瑞浪市道の駅基本構想」を策定しました。

■ 会議・ワークショップ

名称	役割	主な参加者	開催日
瑞浪市道の駅検討委員会	整備する道の駅の基本構想について検討・協議を行う。	岐阜大学の原田准教授、出村准教授、釜戸・大湫地区のみなさんや公募市民、関係機関　ほか	H30.3.19～H31.2.20 までの６回開催（準備会含む）
住民ワークショップ	市民のみなさんが地区の活性化の拠点として必要と考える施設や機能（取組み）等について、具体的な意見を把握する。	釜戸・大湫地区を中心とした住民のみなさん、中京学院大学附属中京高等学校の生徒さん　ほか	H30.5.26～H 30.9.29の５回開催

■ アンケート

名称	調査目的	対象者	有効回答数 回収率	実施時期
市民アンケート（郵送）	道の駅の整備について、①生活の拠点として必要な機能、②観光の拠点として必要な機能について、市民意向を把握する。	市内に居住する 20 歳以上の市民、1000 人	357 票 35.7%	H30.4.2 ～ 30.4.30
釜戸・大湫住民アンケート（郵送）	道の駅のあり方について、計画地周辺の釜戸及び大湫地区住民の意向を把握する。	釜戸および大湫にお住まいの 20 代～70 代以上の方から、各年代 100 人	233 票 38.8%	H30.5.16 ～ H30.6.1
近隣県在住者アンケート（WEB 調査）	道の駅として、道路利用者ニーズを把握するため、潜在的観光客の視点から、本市の道の駅に望ましい導入機能を把握する。	長野県、岐阜県、愛知県に居住する 18 歳以上の方を対象に、各県 300 人ずつ、全 900 件	1,116 票	H30.9.20 ～ 30.9.27